

令和元年度（平成31年度・2019年度）

山ノ内町立南小学校 ESD・地域連携事業について

（1）学校全体の活動＜地域の人・もの・ことから学ぶ＞

①南小かがやきタイム：7/20（土）

- ・参加者 児童 93名 保護者 87名
- ・開設講座（8講座）：エコクラフト，木材を使って，木や実を使って，山ノ内キッズ，地域料理（ピザ），竹を使って，空気砲で遊ぼう，絵手紙



②地域の方のお話を聴く会

- ・6/19（水）山本 宏幸さん
- ・9/26（木）松村みゆきさん



③学習支援

- ・家庭科 5年 玉どめ 手縫いの基礎 6/5 6/12 6/19
5年 ナップサックづくり 1/15 1/22 1/29
6年 エプロンづくり 1/17 1/24
- ・クラブ活動 「切り絵」
- ・生活科・総合的な学習の時間 2年 リンゴ栽培，3年 味噌作り，4年 組み木作り
5年 米作り，6年 ベンチ作りなど
- ・スキー教室インストラクターボランティア

④行事や地域の活動への参加

- ・志賀高原ESD体験学習
（1・2年：地獄谷方面 3・4年：自然探勝コース 5・6年：峠の三十三観音巡り）
- ・そばの種まきやそば打ち（2，3年）
- ・ABMORI（植樹への参加とコカリナ演奏）6年
- ・ふれあい広場，志賀高原音楽祭（合唱団）
- ・長寿を祝う会（4年 作文・校歌と組み木プレゼント）
- ・南部ふれあい祭り（作品展示 台風のため中止）
- ・ESDコンソーシアム成果発表会&交流会（6年）



⑤読書わくわくタイム

- ・ P T A子育て委員による読み聞かせ
- ・ 寺島妙子さんによる読み聞かせ

(2) 各学年の活動

<1年 野菜づくりから始まった他学年との交流活動>

1年生は生活科の時間を中心として、様々な野菜を育て、季節や自然を味わえる活動を進めてきた。特にポップコーンを収穫してからは調理の仕方を2年生に教えてもらい、自分たちでハロウィンパーティーを開いたり、ポップコーン屋さんを開いて、全校の人にふるまったりする活動に広がっていった。ポップコーン屋さんの活動では、オリジナルの絵を描いた包装紙づくり、チラシや看板づくり、引換券づくり、各クラスを訪問し宣伝するなど、活動が広がるとともに、上級生からお礼の手紙をもらうことで、全校の人に喜んでもらった満足感、達成感を味わうことができた。



<2年 りんごを栽培し、販売する学習>

2年生は、学校の敷地内にあるリンゴ畑でリンゴ栽培の体験を行っている。リンゴの観察や摘花、葉摘み、玉回し、収穫を行った。落ちてしまったりんごを試食した子どもたちは、そのおいしさを改めて感じ、たくさんの人にりんごを食べてもらいたいと願い、道の駅での販売をした。品質を高めるための農家の苦労や努力などを体験するところまではいっていないが、農家に負けず劣らずの質の高いりんごを、楽しみにされている観光客の皆さんに販売する経験は、とても貴重な事だと感じた。農業は、ややもすると生産者から消費者の顔が見えないことも多い。自分たちの作ったりんごを目の前で試食してもらい、購入してもらった。子どもたちは接客を通して、「おいしい、おいしいってってもらえてうれしかった」と感じる事ができた。



<3年 大根を栽培・調理し栄養素の働きから自他の健康について考える学習>

3年生は飼育しているウサギのために野菜を栽培し、売ってえさ代を作る活動、その野菜を調理する活動を展開した。1, 2年時に大根を通して動植物の循環について目をむけた子どもたちは、収穫した大根でサラダや味噌汁を作ろうと計画した。調理に使う食材を決定するにあたり「栄養素の3つの働き」について学習した。食品の組み合わせを決める場面では、一人ひとりが食生活や栄養素や家族のことを考えて食材を決め、これからの食生活に生かそうという意欲を高めた。



< 4年 組み木づくり，自家製味噌を使ったスノーボールクッキーを届ける学習 >

1学期に、ズートピア信州の池田憲一郎さんから「組み木づくり」を教わった。初めて取り組む糸ノコを使っての製作に苦戦しながらも、組み木づくりの楽しさのにめり込み、予定時間をオーバーしても製作を続けるほどであった。2学期になり、地域の長寿を祝う会への参加することになり、例年行っている敬老の作文と歌（「ふるさと」と「校歌」）のほかに、今年は「生まれた干支の組み木をプレゼントしよう」ということになった。敬老会当日には、「これからもお元気で」などのメッセージをつけてプレゼントし、お年寄りの皆さんに喜んでいただくことができた。また、毎年4年生が交流している岩渕さんに「組み木と自分たちで前年度（3年次）に仕込んだ味噌で作ったスノーボールクッキーをプレゼントしたらよいのではないか」ということで、クリスマスに合わせてお届けした。こちらも大変喜んでいただくことができた。



< 5年 町に点在する共同浴場の魅力を見つめ直す学習 >

5年生は子どもたちが「共同浴場」を担当に紹介し、自慢の場所なのにどんな場所かよく分からないという現実に気づいたことで学習が始まった。子どもたちは何度も共同浴場に入り、お風呂の「話しやすく楽しい場所」という価値に気づいた。地域の方は、共同浴場をどうとらえているのか知りたいと考えた子どもたちは、保護者や地域住民にアンケートを実施した。結果を分析し、共同浴場が利用され続ける理由は、「人との関わりが生まれる場であるから」と結論付けたが、共同浴場を維持・管理する困難さとも直面した。アンケート結果から、どうすれば共同浴場が持続可能な地域資源となるか、自分たちの考えたことをまとめ、2月の参観日で保護者に発表した。



< 6年 地域を見つめ直し，夜間瀬川を主としたコミュニティ作りや防災に関わる学習 >

6年生は1学期に地域を見つめ直そうと、学区内の様々な場所に行った。「わたしたちの町は田舎で何も無い」と考えていた子どもたちだったが、筆塚や庚申の塔、温泉の源泉などを発見し、「面白いもの」があると考えていった。様々な場所を巡る中で、空き家、廃旅館、投棄されたごみなど地域の課題ともいえる事実と出会っていった。改めて探究課題について話し合うと子どもたちは、地域巡りの中で触れた「夜間瀬川」を決めだし、「大人になっても地域の人が集まってくる夜間瀬川」「大人も子どもも楽しめる夜間瀬川」を実現したいと考え始めた。その中で「高齢者にとっての川」「夜間瀬川堤防のづくり」を問題として、北信建設事務所、社会福祉協議会、信州大学などの協力を得て課題について考えを深めた。11月には子ども議会で、「堤防へのベンチの設置」「花壇・プランターの整備」がコミュニティの場としての夜間瀬川の実現につながるのではないかと町に向けて発表をした。管理の面などで堤防へのベンチの設置が自分たちだけでは難しいという現実に基づいた子どもたちは、ベンチを設置して話しやすい環境を整えることは、川に限らずどこでも大切だと考え、校内に置くベンチを自分たちで製作した。

